

序

生命科学の著しい進歩に伴って数多くの薬が創り出され、現在、わが国では成分名として約3,000種類、商品名として約17,000種類の薬が治療薬として用いられています。このようにわが国では疾患を治療する際に多くの薬を用いることが可能ですが、一方、同じ疾患に対する治療薬でも作用機序の異なるものや同じ系統の類似薬が多数存在することがあり、これらを適切に使い分けるためには患者の病態を把握したうえで、薬の特徴を考慮して決める必要があります。しかし臨床の間では、多くの類似薬のなかからどの薬を選ばよいか教えて欲しい、という臨床医の声をしばしば聞きます。このような声に応えるために、レジデントノートの特集として「どれを選ぶ？ 類似薬の使い分け」(Vol.9, No.6, 2007)を企画し、日常診療でしばしば遭遇するありふれた疾患に対する類似薬の使い分けに関して症例を中心に解説したところ、幸いにも好評を博し、さらに他の疾患の治療に用いる類似薬に対する要望も数多く寄せられました。

そこで本書では、高血圧や糖尿病などの薬の使い分けが難しいといわれる15の病態を対象にして、最初にそれぞれの病態の基本的治療方針および使われる薬の種類について、次いでそれぞれの薬の類似薬の使い分けをベテランの先生方に解説していただきました。実際の症例を中心にわかりやすくまとめていただきましたので、今後の診療に役立つものと思います。

本書が類似薬の使い分けに関する情報源として活用され、薬の適正使用の推進に役に立つことを期待しています。

最後に、本書の企画・編集にご協力いただきました羊土社編集部の中本佳子様と遠藤圭介様に厚く御礼申し上げます。

2009年2月

藤村昭夫